

鷺田清一
とともに
考える
パート②

ドートクの じかんの

「ドートクのじかん」とは

せんだいメディアテーク館長の鷺田清一が、各分野のプロフェッショナルからお話をうかがいながら、いま、メディアテークを通して見える現代社会の状況や課題について考えを深めていく「鷺田清一とともに考える」の新シリーズ。「ドートクのじかん」と銘打ち、あらためて「徳目」*のほんとうの意味について、ゲストの考えを起点としながら、来場者とともにひも解いていきます。今回の徳目は「公平」。様々な民族の暮らしや、過去の文献を通して、文化人類学の視点から国家とは何か?を問い、国家に頼らずとも私たち自身の手で公共を作り出すことが出来ると論じる松村圭一郎さんをお招きし、対話を重ねます。

*徳目(とくもく)… 道德の細目。忠・孝・仁・義など、徳を分類した名目のこと。

3
じかんめ
「公平」

プロフィール

松村圭一郎(まつむら・けいいちろう)
1975年、熊本生まれ。京都大学総合人間学部卒。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。岡山大学文学部准教授。専門は文化人類学。エチオピアの農村や中東の都市でフィールドワークを続け、富の所有と分配、貧困や開発援助、海外出稼ぎなどについて研究。著書に『所有と分配の人類学』(世界思想社)、『文化人類学ブックガイドシリーズ基本の30冊』(人文書院)、『うしろめたさの人類学』(ミシマ社、毎日出版文化賞特別賞受賞)、『これからの大学』(春秋社)、『みだしの人類学：ともに生きる方法』(NHK出版)、『くらしのアナキズム』(ミシマ社)がある。

鷺田清一(わしだ きよかず)
1949年生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学教授・総長、京都市立芸術大学理事長・学長などを歴任。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。著書に『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞)、『「聴く」ことの力』(ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞)、『「くずくず」の理由』(角川選書、読売文学賞)、『しんがりの思想』(角川新書)、『つかふ、使用論ノート』(小学館)など多数。現在「折々のことば」(朝日新聞)連載中。

ゲスト

まつむら けいいちろう
松村圭一郎
文化人類学者
岡山大学准教授

ホスト

わしだ きよかず
鷺田清一
せんだいメディアテーク館長
哲学者

● 手話通訳
● 要約筆記付

バリアフリー対応

2022.7.30(土) 14:00-16:00
せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

参加無料・申込不要・先着120席

にちじ・かいじょう

お願い

新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んでいます
●体調の優れない方は、ご来館をお控えください。●マスク着用、手指の消毒、咳エチケット、距離をとるなどのご協力をお願いします。●やむを得ず、中止となる場合があります(最新情報はウェブサイトをご覧ください)。

お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
[Tel] 022-713-4483 [Fax] 022-713-4482
[Mail] office@smt.city.sendai.jp
[Web] www.smt.jp
助成：一般財団法人 地域創造